

第86号

あゆみ

2021.4.20

NPO 法人ユーアイやちよ

276-0034 八千代市八千代台西 8-16-1

TEL047-482-4109 FAX047-482-4179

E-mail ui-yachiyo@mocha.ocn.ne.jp<http://ui-yachiyo.sakura.ne.jp/>**令和2年度を振り返って**

代表 網干 勝

地球温暖化の影響ではないかと心配されますが、東京の桜の開花が、平年より12日も早い3月14日でした。1月以降、平年の気温を上回る日が大幅に多くなり、この先どうなるのだろうか心配になります。これからの時代を生きる子供や若者達のためにも、私達も出来る限りの温暖化対策に務めたいと思います。

さて令和2年度は、新型コロナウイルスに振り回され続けた1年だったのではないのでしょうか？1月15日に国内で初めての陽性者が確認されてから、感染者数が増え続け、3月13日には、新型コロナウイルス対策の特別措置法が成立しました。その後、4月7日に最初の緊急事態宣言が発令され、5月25日に全国で解除されました。

その後、新型コロナウイルス感染症が蔓延する中でも、感染リスクの高い業務を継続しなければならない介護サービス事業所と、従事する職員を支援するため、厚労省が「介護サービス事業所・施設等における感染症対策支援事業等及び職員に対する慰労金の支給事業」を開始しました。多くのマスクや手袋、フェイスシールドなどのほか、感染しにくい環境を作るために、アクリル製パーティション、IT機器及び空気清浄機などを購入すると共に、全職員に対し慰労金を頂きました。またユーアイやちよが取り組む介護事業においては、訪問介護職員の皆様を始め、全ての職員の皆様に、目には見えない相手から我が身を防御するとともに、感染すると重症化しやすい利用者さんを守るために、細心の注意を払ってサービスを提供して頂きました。また自らが感染源にならないために、極力不要不急の外出を避けてこられたことと思います。不安を抱えながら業務を継続して頂いた皆様、常に自制して頂いた皆様に深く感謝申し上げます。

残念ながら新型コロナウイルスは、まだまだ収束する兆しが見えておりませんが、今年度も感染に気をつけながら、業務を継続することが求められています。

令和3年度も皆様のご協力とご理解を宜しくお願いいたします。

**【令和2年度 ユーアイの地域支援事業に関する報告】**

令和2年度はコロナ禍により、活動は限定的にならざるを得ませんでした。また、活動状況を知っていただく機会や、外に向けたPRも控えざるを得ませんでした。令和3年度になってもコロナ禍の動きに振り回されていますが、一日も早く従来の活動が行えるように願っています。

令和2年度の下半期に、ユーアイやちよが取り組んだ地域支援事業の概要は、次の通りでした。

① ふれあいサロン

ユーアイやちよのボランティア会員が参加しているサロン活動は、「やよい」「高津団地」「やちよ北」「おれんじカフェ」の4か所です。(但し休止再開を繰り返し) 参加したボランティア会員は、13名で、延人数では154人/6ヶ月でした。

② 小さなお手伝い

小さなお手伝いに参加した当法人ボランティアは9名で、利用者人数は月平均8名で、利用回数は、延194回/6ヶ月でした。(お手伝いの内容はゴミ出し、掃除、お使いなど) (P-2 下段に続く)



「with コロナ時代」にこそ求められる「寄り添う支援」 理事 松下 やえ子

地球上で新型コロナウイルスに感染した人は、4月初めに1億人を越えたそうです。

日本においても第4波の感染拡大が始まっています。この感染症により、多くの大切な命を失いました。仕事を失った方も多くいます。子どもたちや学生たちも十分な教育を得る機会に制約が生じました。1年延期された「東京オリンピック2020」の開催も危ぶまれています。1年半前、私たちはこうした状況が訪れることを想像すらしていませんでした。また、これほどまでに長く感染の脅威にさらされるとは予想もしていませんでした。そうした状況下でも、感染予防策を行いながら、笑顔でサービス提供を続けてくださるユーアイやちよのスタッフの皆様、ボランティアの皆様にご心から敬意を表します。

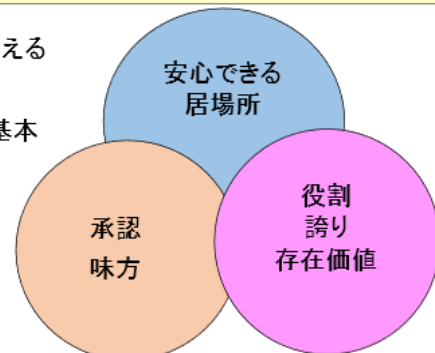
ウイルスの出現は30億年前（コロナウイルスは、コウモリという宿主で、1万年前から存在）、現生人類のホモ・サピエンスの出現は20万年前と言われています。日本人の平均寿命は、長寿と言っても90年弱です。ウイルスからみれば、私たち人類は新参者で短命なのです。にもかかわらず、私たちは便利な生活を享受し、人類に不可能はないと錯覚し、当たり前のように感謝を忘れていなかったでしょうか。コロナ禍において、感染対策や外出自粛生活等の長期化に伴う閉塞感が、気づかないうちに私たちの心身の不調・不健康を招いています。また、感染してしまった人を蔑視したり、自粛警察のような現象も起こりました。私たちは目に見えない感染症を前に、恐怖心や不安から大切なものを見逃してしまったり、必要以上に傷ついたり傷つけてしまっています。人間は、便利で豊かな生活環境だけでは幸せでないことを学びました。

このコロナ禍を契機に、改めて「求められる支援とは何か」を考えてみましょう。「生きる」ことは喜びだけではなく、悲しみ、せつなさ、不安とともにあることです。しかし、右図にある3つの要素を整えることにより、その方の「よりよい人生」を支えることが出来ます。つまり、人が人に行う支援（ケア）とは、その方の悲しみやせつなさに寄り添うことをベースにし、可能な限り3つの要素を整えることであると考えます。

ユーアイやちよの理念は、「誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らせる街づくり」です。介護保険制度や障害者総合支援法に沿った運営を進めることはもちろんですが、コロナ禍だからこそ、皆が笑顔で知恵を寄せ合い、サービス利用者一人ひとりに「寄り添う支援」をユーアイやちよのブランドとして強化していきましょう！

「人よく生きる」うえで大切なこと

3つを整える
||
ケアの基本



国際医療福祉大学大学院 森由紀子：医学書院「精神医学」連載「精神科の戦後史」
図「認知症ケアの基本」に筆者が一部加筆



③ 傾聴活動 (P-1 下段の続き)

令和2年度の傾聴活動は、コロナ禍の為、施設でのグループ傾聴が全面的に中止と成りました。その中で施設内での個人傾聴、更に個人宅での傾聴が取り組まれました。令和2年度下半期の活動状況は、利用者数は11名、一方活動者数は13名、延94回でした。

訪問介護フォーラムに参加して

代表 網干 勝

去る3月14日にオークラ千葉ホテルで、訪問介護フォーラムが開催されました。第1部は2021年度の介護保険制度改定と「with コロナ時代」にこそ求められる「訪問介護」というテーマで、服部万里子氏から講演いただきました。

介護事業においては、利用者様や職員に感染者が発生したり、地震・台風洪水等の災害が発生しても、事業を継続することが求められており、そのために必要な委員会開催、指針整備、研修及び訓練の実施等が義務化されます。

(3年間は努力義務)また、利用者様の人権擁護、虐待の発生・再発防止のために委員会開催や研修等が義務化されます。居宅介護支援では、過去6ヶ月間のケアプランの中身として、訪問介護、通所介護、福祉用具貸与、地域密着型通所介護のサービス占める割合と、同じサービス内に占める同一事業所の割合について、利用者様に説明することが義務化されます。この他にも科学的介護(LIFEとPDCAサイクル)への対応等多くの改定があるため、ユーアイやちよとしても、しっかりと対応することが求められています。

第2部では、新型コロナウイルスから学ぶ「ホームヘルパーの感染症対策」というテーマで、船橋市福祉サービス公社の訪問介護職員の方々により、取り組んできたヘルパーの感染症対策や、作成された「濃厚接触者等の方がいる家庭への訪問介護サービス対応マニュアル」に基づいて、説明と防護具着脱の実演をして頂きました。

感染者が発生しても事業を継続出来るよう対応が求められていることもあり、このマニュアルを参考にして研修を進め、濃厚接触者の方などに対応出来るようにすることが、重要であると痛感しました。



～ ヘルパーのリレーメッセージ ～ 橋 真奈美

1. ヘルパーとしての勤務期間 ⇒ 7ヶ月 (ユーアイでの期間)
2. 好きな言葉 ⇒ 『医食同源』: 忙しくても食事に気を配るようにしています。
3. 仕事にあたって心がけていること ⇒ 言葉使い、身だしなみ、表情等不快な印象を与えないように心掛けています。
4. 利用者さんから教えていただいたこと ⇒ 料理
5. うれしかったこと ⇒ 身体的な部分や生活環境などに良い変化が見られた時
6. 仕事以外の楽しいこと ⇒ アロマ・音楽鑑賞

微笑みの輪

【賛助会員の皆様のご協力】

今年度も次の皆様から賛助会費のご協力を頂きました。心より感謝申し上げます。
清水 和昌 様、鈴木 静江 様、辻 誠逸 様、中島 幸枝 様、水戸 明美 様、
山田 たみ 様、山根 聡子 様、武者 節子 様 (順不同)

今年度も、皆様のご支援とご協力を宜しくお願い致します！

いつでも、賛助会員としてのご協力、ご支援をお受けいたします。

お電話を頂ければお伺いします。なお、振り込みして頂ける場合は、下記口座をお願いします。

振込先 : 千葉銀行八千代台支店 (普通) 3266357

口座名義人 : 特定非営利活動法人 ユーアイやちよ 代表理事 網干 勝

【賛助会費外の寄付】

堀内 清松 様からは、令和3年度早々に多大なる寄付を頂きました。本当に有り難うございました。



千葉県助け合い協議会に参加して

副代表 山崎 タキヨ

去る1月8日に県社協で山下先生を囲む会があり、「千葉県助け合い協議会」（以下「協議会」と言う）の役員が、日頃の悩みや、相談ごとなどを持ち寄り、互いに情報共有化に努めました。

【協議会に参加している団体等の現状】

サロン等の開催は、各市町村の方針もあり殆ど行っていない状況ですが、一方では福祉有償運送の依頼は多く、受診のため移送を行っている団体は、どこもフルに活動の状況です。また、移送サービスの担い手の高齢化に伴い、その対策として研修の実施、団体内でのスキルアップ等に取り組み、新たな担い手の掘り起こしに努めている団体が多いことが判りました。

団体の中には、介護保険事業と両輪で助け合いを行っているところも多いですが、助け合いの自費サービスや有償・無償のボランティアのみで行っている団体は、市町村や包括からの依頼があっても、サービスの担い手がコロナへの不安から、担い手不足と言う事態が生じ、ゴミ捨て、買い物支援等も、以前からの契約している利用者のみでの活動に限定しているとの報告もありました。また、介護保険の総合事業は、市町村独自の事業であり、内容にも進み具合にも大きな差があり、市民と行政とのパートナーシップに関しても格差が大きいがことが判りました。

【今後の取り組みについて】

今後の取り組みについて山下先生より、助け合い活動のあり方、方向性に関する悩み等を相談する機会となり、山下先生から適切なご助言を頂きました。しかし、個々の団体としては、今後の方向性、人材不足、活動への不安や後継者問題などで、岐路に立っている状況であり、困難な課題があることがわかりました。現在の状況下で、助け合いの取り組みをどんどん広げて行くことは、非常に困難な状況にあると思いますが、今後も団体同士が情報を共有し合い、その上で団体其々が自分達の今後を考えて、会員間で相互の助け合い、交流を続けて行くことで、出来る範囲でサロン活動、小さなお手伝い、ご近所の高齢者の見守り等のボランティア活動を続けることが大切であると感じました。

また、山崎自身としては、コロナの感染への危惧が軽減された折には、高齢者の皆さんの居場所としてのサロン活動も再開出来ると思っています。



【行事報告】

- R2/11/30 能力開発セミナー（千葉市文化センター）
- 12/22 処遇改善加算研修（千葉商工会議所）
- R3/1/8 助け合い協議会
- 1/15 安全先任者養成講習（ZOOM）
- 1/22 障害者虐待防止研修（ZOOM）
- 1月 定例会（接遇）
- 2/19 ワイズマン介護報酬改定セミナー（ZOOM）
- 2/25 介護保険改正セミナー
（介護労働安定センター・ZOOM）
- 3/14 訪問介護フォーラム（オークラ千葉ホテル）
- 3/25 訪問介護部会（ZOOM）
- 3月 定例会（法令遵守とプライバシー保護・ハラスメント）



【今後の予定】

- 5月 定期総会
（書面委任での開催を予定）



市民支援事業に「語らいパートナーの会」が応募！！
 ユーアイやちよの地域支援事業として、傾聴ボランティア活動に取り組んでいる『語らいパートナーの会』は、**令和3年度も市民活動支援制度に応募**しました。助成金の確保には皆様のご理解とご協力が必要ですので、昨年度に引き続き宜しくお願いいたします。